不必要な誠実論

――島木氏への答――

宮本百合子

青空文庫

『文芸春秋』四月号にのった文芸時評に対するあなたの御感想を拝見しました。別な作者の小説「希望館」についての感想を敷衍しつつ、嘗て或る時期に、実際運動をしていた人々が文学の仕事に移って来て今日示している或る種の文学活動に向って感じられたいろいろの疑を私はその時評の中に述べた。それについてあなたの御感想が書かれているわけです。

あなたが、一人の作家の主観として、自身が決してその時評に云われていたような作家の仕事への過小評価、仕事への自覚、誠実、情熱の不足をもって仕事はしておらぬ、そういう表現はうけがえぬ、と云われる場合、私はこういう場処で、広い意味では共通なものとして示されているあなたの作家としての公の言葉を、ああこうと忖度する必要は感じません。

しかしながら、一人の作家としての誠意、努力がどのように正当に高く評価されたとしても、或る文学運動が或る時期にその総体の中に持っていた未熟さというものは、やはり客観的には目に映るものであるし、とりあげられるのが自然であろうと思います。

嘗て別な分野で働いていた人々が文学的活動で示す多くの疑問を与える点を、「あんな男が運動の指導者であったのだから」と驚くことから掘下げてゆくべきであり、原因は単に昔の文化主義的なものの観方にあるのではないというあなたの意見について、私はこう思います。当時の歴史の若さ、全体として経験の未熟さこそが、貴方の云われる「あんな男」を、一応は指導者めいた位置にもおいたのであろうし、同時に、文学についての理解においても、その若さ未熟さから避け難い文化主義を生んだのであったろう、と。

あんな男が云々というあなたの言葉は、空中を切る鞭のような響きを立てる云いかたかもしれないが、私は歴史というものに対してもっと嗜虐的でない感情を抱いております。私たち共通の未熟さというものについては、あなたもよく御承知のとおり、一人の女としても種々思い深めざるを得ない事情に生きているのですから。

私は、あなたのこの文章を送られて読んで何だか非常に複雑な感情にうたれました。あなたの文章にかかれているようなことは、あなたとして、こと更こういう場所での一言として書かれなければならない今日の第一の大切なことなのであったろうかどうかと思った。何故なら、この文章で主張されているような意味での真実性は十分もっている作家としてあなたは日頃世間から見られている。そのことは、もとより御自身にも明瞭に分っていらっしゃるのだから。そして、私たち全体として持っているそれぞれの困難を克服する方法、努力というようなものが、共同的にされるべきことも、謂わば自明のことなのだから。私として飾りなく云うと、こういう紙面でのあい対がおのずから期待している性質を正しく活かすために、例えば私などよりより深く見られるところに貴方がおられる或る種の文学放言などに対し社会的な意味を自覚している作家としての立場から公然たる一言を見出されなかったことが、何だか遺憾です。私たち作家の間で、お伽噺にあるよくばりのように、自分たちの持ち合わす誠実の量の抽象的なくらべっこなど全く必要がないばかりか、誠実そのものにしろ、日常の作家的進退の公私を貫ぬいた生きかたでだけ、存在を示し得るものと思います。

〔一九三七年六月〕

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集　第十一巻」新日本出版社
1980（昭和55）年1月20日初版発行
1986（昭和61）年3月20日第5刷発行
親本：「宮本百合子全集　第七巻」河出書房
1951（昭和26）年7月発行
初出：「読売新聞」
1937（昭和12）年6月9日号
入力：柴田卓治
校正：米田進
2003年2月17日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

不必要な誠実論
――島木氏への答――

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

著者　　宮本百合子
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/